

東国文化自由研究レポート



研究テーマ

保渡田古墳群はなぜ一ヶ所に古墳が集まっているのか
～古墳はなぜそこにあるのか～

提出日 2023年 8月 21日 (月)



伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校

1年 2組 9番

氏名 大宜見 弥子

保渡田古墳群はなぜ一ヶ所に古墳が集まっているのか

1. 研究の動機

群馬県の古墳の場所について調べていた所、一ヶ所に大きな古墳が3基も集まっていた保渡田群に興味を持ちました。また、古墳は有力者のお墓と学んだので、こんなに近い地域に3人も有力者が存在していたのか？という疑問を持ったからです。

保渡田古墳群とは？

群馬県高崎市の榛名山東南麓の井野川上流域にある3基の前方後円墳の総称です。5世紀後半から6世紀初頭にかけて二子山古墳→八幡塚古墳→薬師塚古墳の順で造られました。当時の東日本において、極めて優勢であった豪族たちの墓所として国指定史跡に指定されています。

2. 研究方法

興味を持った保渡田古墳群に行き、3つの古墳の場所についてのヒントになりそうな歴史や古墳について、地形などを主に「かみつけの里博物館」で見学をしました。また、分からないことはインターネットで調べて参考にしました。

保渡田古墳群について調べ



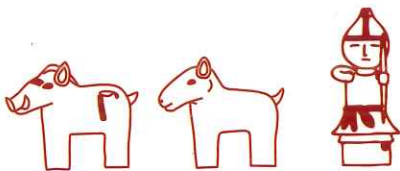
保渡田古墳群「かみつけの里博物館」に行く



調べたことをまとめる。インターネットで最終調べ 保渡田古墳群の模型



レポート作成



かみつけの里博物館のチケットの一部



3. 答えの予想

保渡田古墳群が二子山古墳、八幡塚古墳、薬師塚古墳の3つの古墳がなぜ集まっているのか?という疑問に、古墳を作るスペースがなくなってしまうので一ヶ所にまとめて造ったという仮説を立てました。なぜなら、下調べで昔は水田が栄えていたということを知ったからです。当時、川から水をひき、水田をたくさんつくったそうです。米は、貴重で価値が高かったため、たくさん作ったことにより、有力者は、多くの富と権力を持ちました。水田が多すぎて、3つの古墳を別々の場所に造るにはスペースがなかったため、一ヶ所にまとめて造ったのだと思いました。



4. 3つの古墳紹介

① 八幡塚古墳

八幡塚古墳は、埴輪が充実した古墳として全国に知られています。その埴輪の数は6000体以上とされています。古墳の頂上は削られていたため埴輪は確認されていませんが、外側の堤から、盾持人埴輪、中島から家形埴輪が見つかっていて、内側の堤には、人物、動物埴輪などが並ぶ区画が2ヶ所ありました。実際に行ってみても、埴輪がたくさんありました。また、頂上から内部へ降りると、石棺がありました。この石棺は、舟形石棺といい、ヤマトの大豪族が使った長持形石棺に次ぐ格式の棺でヤマトに次ぐ有力な地域の豪族が八幡塚古墳に眠っていたと考えられました。

八幡塚古墳の舟形石棺





② 二子山古墳

二子山古墳は保渡田古墳群のなかで最初に造られた前方後円墳です。その時期は5世紀第3四半期と考えられています。王の遺体をおさめた棺は、八幡塚古墳と同じ、舟形石棺です。この古墳の歴史は、

昭和4年	皇室博物館(現・東京国立博物館)の後藤守一が発掘調査し、内堀と外堀の間にある中堤から人物埴輪や顔面付円筒埴輪を発見しました。
昭和59年	史跡指定のために墓域の発掘調査が行われ、全体の大きさが確定しました。
昭和63年	古墳の外側が発掘調査され、溝で区画された場所から多数の人数・動物埴輪が出土しました。ここから、二子山古墳を明確にするのは約60年かかったと分かります。



③ 薬師塚古墳

薬師塚古墳は、保渡田古墳群で最後に築かれた前方後円墳で5世紀の末～6世紀の初めに造られたと考えられています。

江戸時代にこの古墳から、八幡塚古墳と二子山古墳からも出土した舟形石棺が掘り出され、中から鏡馬具、玉などが発見されたと伝えられています。この時に出土したとされる遺物は、国の重要文化財に指定され、古墳脇の西光時に保管されているそうです。

昭和63年には、古墳の周りが調査され、内堀と狭い外堀が確認されました。その結果、この古墳では、二子山古墳、八幡塚古墳に比べて墓域の広さや埴輪の数、葺き石を施す範囲などが省略されていたことが分かりました。

💡 3つの古墳から分かること

3つとも舟形石棺が出土されて、舟形石棺はヤマトの大豪族が使った棺に次ぐ、格式の棺でヤマト王権に次ぐ、有力な地域の豪族の棺と考えられ、薬師塚古墳から貴重な鏡が出土したことから、保渡田古墳群は、強い権力をもった有力者の古墳だと考えられます。

5. 研究

① 保渡田古墳群の有力者は、どうやって権力を強めた!?

当時の権力の象徴となるものは「古墳の大きさ」でした。

保渡田古墳群の3つの古墳は、どれもとても大きく、

全長約100mくらいです。

古墳時代中期に墳長100m

前後の古墳が近接して3基

も築かれた例は、東日本で

保渡田古墳群以外には、

見当たらないそうです。

ここから分かるようにこの地域

の3人以上の有力者は大きな権力と

古墳をつくれる多くの富を持っていたことがわかります。



八幡塚古墳

② ではなぜこんなに権力を強められたのでしょうか?

年表を見てみると、

紀元前100年で農耕社会が定着、発展

し、100年には水田農耕が盛んに行わ

れていたことがわかります。

保渡田古墳群は、高崎市の平野部の耕

作地帯を見下ろすなだらかな所にあり、

一帯を流れる井野川の水源地域で

たくさん水田がありました。そこで、

稲作が作られたのは紀元前3世紀の

九州に伝わったそうですが、1世紀に

もう関東の群馬で取り組んでいたの

で、やはり、保渡田古墳群の有力者は、

ヤマト王権やちがう地域の有力者

ともつながりをもっているくらい

権力が強かったことが読みとれ

ます。

紀元前	農耕社会が
1世紀	定着、発展
100年代	水田耕作が盛んに行われる
300年代	浅間山大噴火
	古墳の築造が始まる
400年代	竪穴式石室の前方後円墳
	が各地に築造される。
	巨大古墳が造られる



①の考え

保渡田古墳群の有力者達が権力を強めていた方法は、当時栄えていた「米」と考えました。なぜなら、当時、米はとても貴重で高価だったからです。



保渡田古墳群は、5世紀後半～6世紀初めに造られました。その約200年前、3世紀ごろ、中国の歴史書魏志倭人伝に日本の税に関する記述があり、卑弥呼が支配する邪馬台国（現存の九州地方と考えられている）では、税が納められていたそうです。その内に収穫の3%を納める「租」という税もありました。

このことから、保渡田古墳群の有力者達が権力を強めた方法は「米」だと結論づけました。その方法はこのような形だと思います。

100年代 水田耕作が盛んに行われ、米がたくさんできた



権力があつたため、米の税を知り、取り入れてみる



農民の米がたくさん納められ、権力をさらに強める

💡このような方法で有力者は権力を強め、古墳が近くに3基あるので3代以上有力者は続き、そのムラも長い間栄えていたのだと考えました。

❓この考えを考えた時、3代以上も有力者は続いたと考えましたが、ではなぜ急に3代以上で途絶えてしまったのかと新たな疑問が生まれ、調べてみることにしました。

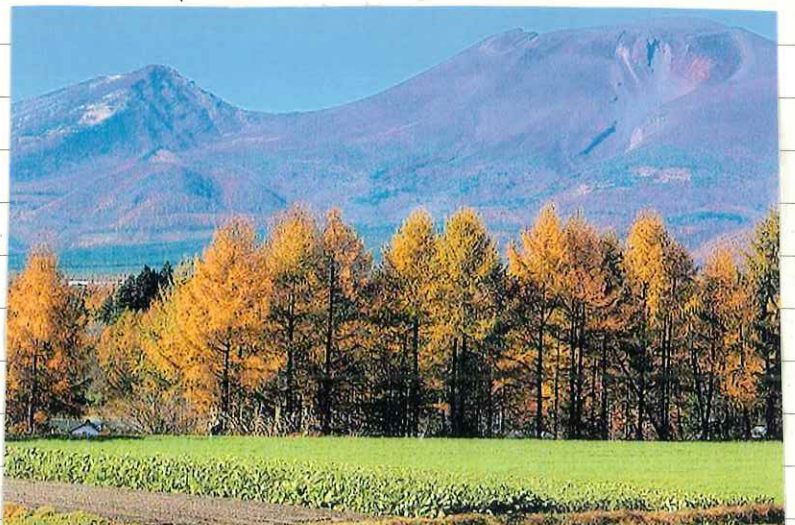
② 栄えていたムラ、どうして急に途絶えてしまったのか？

保渡田古墳群は写真のよう
にととても大きく、3基あつたた
め、ムラが長く続いていた
ことが分かります。研究①
でも述べたように、保渡田
古墳群の有力者は、米で
ムラを栄えさせ、権力を強
めたと考えました。



③ では、なぜ栄えていたムラは急に途絶えてしまったのか？

保渡田古墳群になにがあつ
たのでしょうか？歴史を見て
見ようと思ひ、4ページの
年表を見てみると、保渡田
古墳群が造られるおおよそ
200年前、3世紀に、浅間
山大噴火というものがあつ
たことが分かりました。



浅間山大噴火について
調べていると、右の写真くらいの
大きな山だつた事が分かりました。

このことから、噴火がとつても大きかつた^{浅間山}ので、保渡田古墳
群の有力者のムラまで、火山灰や、よう岩が来た可能性もあつ
たと考えました。

💡 浅間山大噴火があり、その後にも榛名山で噴火があつた
そうです。この2つの噴火が栄えていたムラが急に途
絶えてしまつたことに関係があると考えました。

②の考え

保渡田古墳群の有力者のムラは米で栄えていたのに、なぜ急に途絶えてしまった理由は、2つの噴火が関係していると考えました。保渡田古墳群が造られる前に大きな浅間山噴火があり、その後も榛名山噴火の2つが続いて起こったそうです。右の写真は1973年の浅間山噴火の写真です。



1973年の噴火

年はちがいますが、当時の噴火もこのくらいの大ささなら、保渡田古墳群のムラまで火山灰やよう岩がとどく可能性もあり、水田に被害がおよんでしまったと考えました。

このことから、保渡田古墳群が急に途絶えてしまった理由は2つの噴火が関係していたと結論づけました。方法はこうです。

たくさんの水田があり、ムラが栄えている



浅間山噴火があり、水田が使えなくなってしまう/時的に衰える



水田を工夫して作り直して生産量が増えたが榛名山噴火で使えなくなる



水田が作れなくなり、ムラは衰えていく



ムラが途絶えてしまう

💡このような理由で栄えていたムラは2つの火山により、栄えたことの基となった米がとれなくなり、ムラは衰え、途絶えてしまったと考えました。

6. 研究のまとめ

研究①から

～保渡田古墳群の有力者はどうやって権力を強めた!?～

- 3基とも約100mあり、古墳は権力の強さを表しているため権力が強いことが分かる
- 当時は、水田農耕が盛んに行われていた



★ 当時高価で貴重な米をたくさん作り、米を納める税を取り入れ、米をたくさん手に入れた有力者は、権力を強めていったと考えました。

研究②から

～栄えていたムラ、どうして急に途絶えてしまったのか!?～

- 当時、浅間山と榛名山の2つの大きな噴火があった
- 噴火はとても大きか、たそうで、ムラまで火山灰やよう岩が来た可能性があった



★ 当時、米で栄えていたムラでしたが、2つの噴火により、水田が被害にあい、米が作れなくなってしまう。権力が衰え、ムラが途絶えてしまったと考えました。

7. 結論

～保渡田古墳群はなぜ一ヶ所に古墳が集まっているのか～

保渡田古墳群の有力者のムラは、米を多く作っていたため、とても権力が強く、栄えていました。そのためムラは、数百年続き、その間に、何代も有力者が一族の中で変わってしまいました。栄えていたムラに浅間山、榛名山の2回の噴火で栄える基となった米が作れなくなってしまう。ムラは衰えていきました。そのため何代かの有力者が一族だったため、近くに古墳を造ったと考えました。

8. 感想

私は、このレポートを作るまで、古墳について、あまり興味を持っていませんでした。しかし、このレポートを作ることになって、歴史や場所について下調べをしたり、博物館や古墳に行ったりしているうちに、古墳や歴史に興味が出てきて、社会科をもっと好きになりました。さらに、探究することもレポートを通じて好きになりました。これからは、この2つの好きを社会科は、今後の勉強でさらに、好きになり、自分の得意なこととして生かし、探究は、これからも分からないことや、知りたいことに、あきらめずに、探究していきたいです。

9. 参考

- 東国文化副読本～古代ぐんまを探検しよう～
群馬県出版 2022年度版
- UCVライブカメラ(7枚目の浅間山の写真)live.ued.ne.jp
- 山と溪谷オンライン(6枚目の浅間山の写真)yamaki.online.com
- かみつけの里博物館
- 保渡田古墳群
- インターネット閲覧日
2023年 7月 26日

